

平成 28 (2016) 年さけます来遊状況 (第 3 報 : 10/31 現在)

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 北海道の 10 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、5 年魚 (2011 年級) は前年を上回るが 4 年魚 (2012 年級) は減少
- 4 年魚 (2012 年級) は 1994 年以降最も少ない
- 北海道のサケの平均重量は 3.39kg で、前年同期と同水準

・サケの年齢組成

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定途中経過をもとに、10 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、5 年魚 (2011 年級) が全体の 60% と最も多く、次に 4 年魚 (2012 年級) が 36% を占めました。5 年魚は前年同期の 150% と前年を上回っていますが、4 年魚は前年同期の 39% と減少しています。1994 年以降の平均との比較では、それぞれ 81% と 40% となっており、4 年魚は 1994 年以降で最も少ない状況です (図 1)。

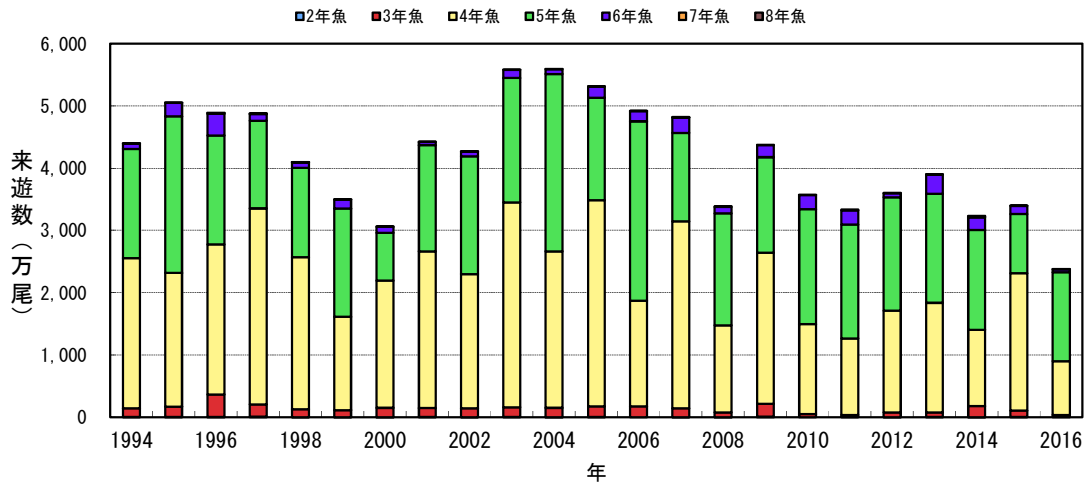


図 1. 10 月末時点のサケ年齢別来遊数 (北海道).

年級群 (生まれ年) ごとの来遊数をみると、今年の 4 年魚である 2012 年級は、4 年魚までの来遊数 (2~4 年魚の来遊数) で比べた場合、1992 年級以降では最も少なくなっています。一方 5 年魚である 2011 年級は、1992 年級以降では平均的な水準となっています (図 2)。

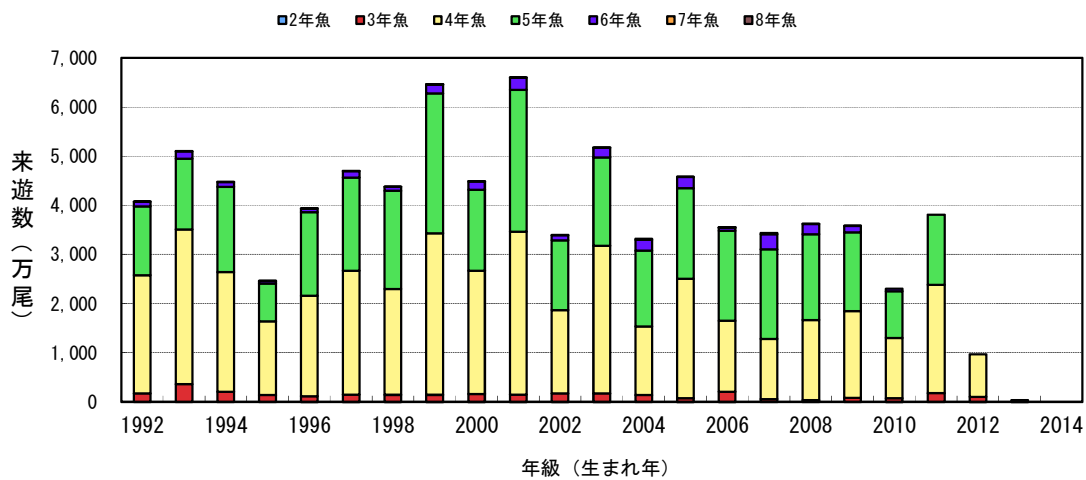


図 2. 10 月末時点のサケ年級群 (生まれ年) 別来遊数 (北海道).

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、5年魚が前年同期の135%、1994年以降の平均の64%の水準ですが、4年魚は前年同期の34%、1994年以降の平均の29%と1994年以降では最も少なくなっています（図3）。日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、5年魚は前年同期の162%、1994年以降の平均の98%の水準となっていますが、4年魚は前年同期の44%、1994年以降の平均の53%と1994年以降では最も少なくなっており（図4）、両地域とも5年魚は前年を上回っているものの、4年魚は前年を大きく下回っています。

なお、北海道では、サケの年齢組成は来遊時期の初めの頃には高齢魚（5年魚）の割合が高く、シーズンが進むにつれて3年魚や4年魚の割合が高くなる傾向があります。4年魚の来遊数は、前報（第2報：9/30現在）の時点に比べ、前年比、平年比ともに上がっていますが、1994年以降最も少ない状況は変わっていません。

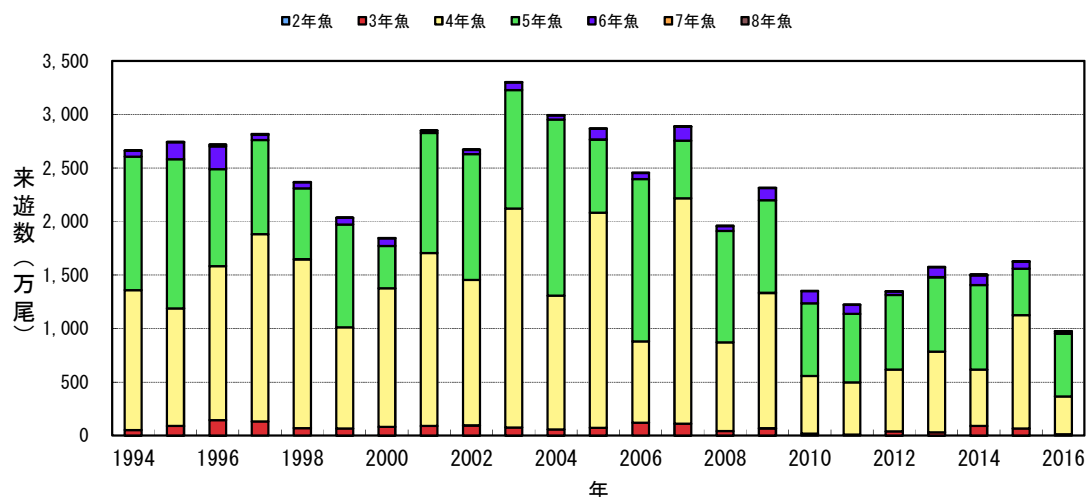


図3. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

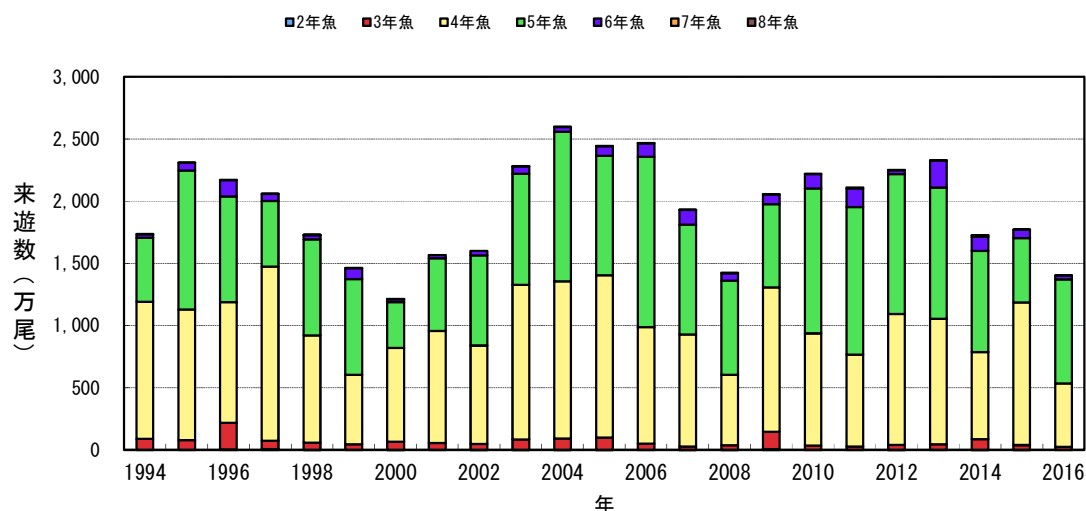


図4. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における 10 月 31 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は 3.39kg であり、これは前年同期（3.44kg）の 99%に相当します（図 5）。

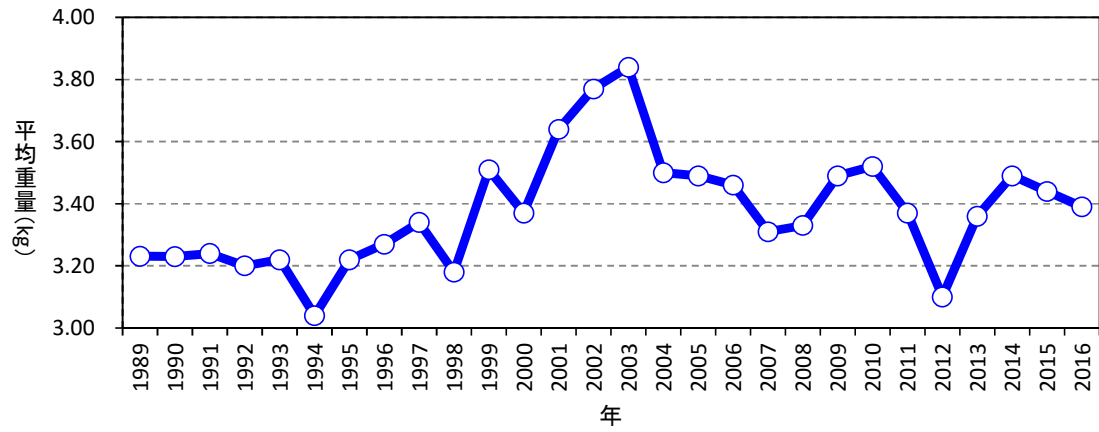


図 5. 10 月末時点のサケ平均重量（北海道）.